

## 第139回経営協議会議事概要

日 時 令和6年10月17日（木）13時32分～15時00分  
場 所 本部棟特別会議室  
出席者 和田隆志（議長），森本章治，滝波泰，山岸雅子，飯山宏一，山本卓，  
松本宏一，堀修，吉崎智一，河田悌一，後藤ひとみ，里見進，新保博之，  
武田泉穂  
（以下，Webによる出席者）  
有松育子，大橋徹二，原田明久，山内雅喜  
欠席者 徳田博，渡辺芳人  
ワグザバー 稲垣美智子，浅野哲夫  
陪席者 中村慎一，三浦要，谷内江昭宏，中沢正隆

### 1 前回議事確認

第138回経営協議会 8月2日（金）～7日（水）開催

### 2 意見交換 「令和6年能登半島地震における金沢大学の対応」

総務・財務・施設担当理事から，資料1-1に基づき，金沢大学における被災施設・設備の復旧状況について説明があり，続けて，能登里山里海未来創造センター長から，資料1-2に基づき，及び能登復興支援の構想と取組について説明があった。説明を踏まえて，今後の金沢大学の対応について，意見交換を行った。

#### [委員からの主な意見]

- 復旧復興に向けて必要な予算がつかないと前に進めないが，組織づくりや施設整備のどの部分にどのような予算がついているのかがわかりにくい。今後の話をする際にはそういった情報があるとよい。
- 被災地へのアクセスが復旧し地域の活用度が戻ってくるにはだいぶ時間がかかる。復興支援の計画も，長期的にバランスをみて進めていく必要がある。
- 民間企業と行政を巻き込んでいく，特に行政を動かしていくためには，報道などで取り上げてもらうことが必要。大学からの発信を強化してほしい。
- 災害や復旧復興に関する事業をやっている企業，関連する資材や機材を扱う企業を巻き込んでいくこともよい。
- 県や市町が復興計画を策定していく際に，専門家として大学が関わっていくことが大事である。
- 復興の計画を実行しようとするときに，例えば共同研究等による産学官の「産」の巻き込みが大事になる。その一方で，教員の負担の少ない方法をとってもらいたい。
- 概算要求の教育組織改革について，「未来創造」「ひとづくり」部門の役割はわかりやすいが，「まち・なりわいづくり」について，今後どうするのかという具体性がわかりにくい。

### 3 協 議

#### (1) 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等

総務・財務・施設担当理事から、資料2-1～2-3に基づき、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について説明があり、審議の結果、承認された。

### 4 報 告

#### (1) 令和7年度概算要求

総務・財務・施設担当理事から、資料3-1～3-3に基づき、令和7年度概算要求について報告があった。

#### [委員からの主な意見]

- 大学が予算を獲得することに関して、URA の活躍がどれだけあったか、その活躍によって研究者がいかに研究に注力することができたかを評価し発信してもらいたい。

(以下、説明を省略)

#### (2) 令和5事業年度財務諸表の承認 (資料掲載のみ)

### 5 その他

(以下、説明を省略)

#### (1) 令和6年度における経営協議会学外委員からの意見への取組状況 (資料掲載のみ)

<次回開催予定>

第140回経営協議会 日時：令和6年12月20日（金）15時30分から